

令和3年2月1日に思う

丑年って、どんな年？

「痛みを伴う衰退と新たな息吹が互いに増強し合う年」あるいは「我慢、これから発展する前ぶれの年」などがあるようです。元来、牛は古くから人間の生活に欠かせない身近な動物として好意的にとらえられ、人気があります。「温厚な性格」「頭の回転が速い」「努力、コツコツ型」等々、多少「がんこもの、意地っぱり」というイメージがあるものの、肯定的であります。

かの文豪・夏目漱石も、牛に対して良い印象をもっていたようです。年末から読みかけた本の中にそのことが書かれていました。仲間に送った手紙などに、たびたび牛が登場します。以下、彼の言葉です。

- ・焦ってはいけません。
- ・頭を悪くしてはいけません。
- ・超然（物事にこだわらず、平然としているさま）とするのです。
- ・牛のように図々しく進むことが大事です。

そして「世の中は根気の前に頭を下げることは知っているが、火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません」と続きます。慌てず、焦らず、ブレずにコツコツと続けることの大切さを説いています。

これらを踏まえ、皆さんはどのような年にしたいですか？

夏目漱石の言葉から「天才は努力することをやめられなくなった者の中にいる」、「はじめることより、続けることがむずかしい」という言葉がよぎりました。コロナ禍で、先行きが見通しづらい世の中だからこそ、落ち着いて自分ができることをコツコツと続けることが大切だと思います。

今年も、「都市にはない豊かな暮らしを築くこと」を超然かつ着実に進めていきます。